

肝葉捻転を伴った肝嚢胞の猫の1例

2005.5 動臨研合同カンファレンス要旨より

【症 例】

雑種猫，去勢雄，1歳10カ月齢，体重4.2kg

【主 訴】

肝嚢胞の外科的治療を希望して紹介来院。

現病歴は，4日前から急に元気食欲が低下したとのことで3週間前に他院を受診。受診時の症例は横臥状態で，著しい腹囲膨満を呈し，エコー検査にて腹腔内に巨大シストが確認されたとのことであった。ショックに対する対症療法により一般状態に改善が見られた後，穿刺吸引により貯留液500ml(黄色透明，TP6.4，比重1.044)が抜去されたとのことであった。この際，穿刺の途中から貯留液の性状が血様漿液に変化し，治療開始2日目からPCVの低下が認められたとのことであった。3日目には一般状態は良好となったが，8日目より腹囲膨満が徐々に進行してきたため，根治的治療のため当院に紹介され来院。

【身体検査所見】

体重4.2kg，体温38.6℃，腹囲膨満，心雑音なし。

【初診時臨床検査所見】

◎血液学的検査(表1)

再生像を伴った軽度の貧血と黄疸が認められた。

◎血液化学検査(表2)

T-Bil, AST, ALT, ALP, GGT, CKの軽度から中等度上昇とMgの軽度低下が認められた。

◎単純レントゲン

肝臓後縁に陰影度の均一な小児頭大の巨大腫瘤，結腸の変位とガス貯留像が認められた。

◎超音波検査(図1)

肝臓後方に接してエコーフリー像を持つ巨大シストが認められた。

◎CT検査(翌日)(図2, 3, 4, 5)

左葉の不明瞭化と胆嚢の左側への変位が認められた。

【診断および治療】

上記検査所見より肝嚢胞と診断し，外科手術を前提に静脈内持続点滴による入院治療を開始した。翌日に全身麻酔下にてCT造影検査を実施した。入院4日目に全身麻酔下で腹腔内腫瘤の摘出術を実施した。麻酔は，ブプレノルフィンを皮下投与した後，アトロピン，ジアゼパム，塩酸ケタミンの静脈内投与で導入，酸素とイソフルラン吸入により麻酔を維持した。また術中は塩化サクシニルコリンの間歇的静脈内投与下でベンチレーターによる調節呼吸とした。術中に新鮮血50mlの輸血を行った。

手術は仰臥保定により，腹部正中切開にてアプローチした。開腹すると，灰白色から暗赤色で表面が平滑な小児頭大の腫瘤が確認された。この腫瘤は肝門部で捻転し，シスト化した外側および内側左葉であった(図6)。シスト化した外側および内側左葉を超音波手術装置を用いて切除した。他の腹腔内臓器には特に異常は見られなかったため，腹腔内を洗浄し，常法に従い閉腹した。摘出したシスト化した肝葉は，15×9×6cm，重量400gで，病理組織学的検査では，嚢胞構造を形成した壊死組織と診断された。症例は手術翌日から食欲があり，術後3日目には貧血および黄疸も改善した。術後9日目に抜糸し，退院とした。現在，手術から1月経つが，その後も経過は良好である。

【コメント】

肝嚢胞とは，大小不同の嚢胞が肝臓内に単発あるいは多発性に生じたものをいい，原因により先天性と後天性に分けられる。典型的な先天性肝嚢胞は，肝臓内に小さなシストが多発性に，ブドウの房状に生じ，嚢胞内貯留液は透明な漿液であり，腎嚢胞を合併していることが多いと言われている。

本症例においては，嚢胞は辺縁平滑な単一の大きなシストで，摘出時には捻転を伴ってお

り，腎嚢胞の合併は見られなかった。また嚢胞内貯留液は血様漿液であり，嚢胞壁は病理組織学的に壊死組織であった。本症例の肝嚢胞は通常の先天性肝嚢胞とは異なる病態を示しており，後天性肝嚢胞の可能性が考えられた。肝嚢胞の原因については，手術時に認められた捻転も考えられるが，正常な肝臓が捻転を起こすことは考えにくく，また，発症から3週間以上経過しており，また，他院での穿刺時に出血を起こしていたなどの経歴もあり，嚢胞形成の正確な原因は不明である。

表1 初診時の血液学的検査所見

RBC(×10 ⁹ /μl)	6.16	WBC(/μl)	8700
Hb(g/dl)	8.8	Band-N	0
PCV(%)	29	Seg-N	5307
MCV(fl)	45	Lym	3306
MCHC(g/dl)	31.1	Mon	0
Anysocytosis	+	Eos	261
Polychromasia	+	Plat(×10 ³ /μl)	334
Icterus Index	8	HPT(sec)	17.6
Hemol	—	APTT(sec)	17.8

表2 初診時の血液生化学検査所見

TP(g/dl)	6.9	Glu(mg/dl)	80
Alb(g/dl)	2.7	CK(U/l)	676
TBil(mg/dl)	0.5	BUN(mg/dl)	21.8
DBil(mg/dl)	0.1	Cre(mg/dl)	0.9
AST(U/l)	53	Ca (mg/dl)	10.0
ALT(U/l)	147	P(mg/dl)	6.6
ALP(U/l)	144	Mg(mg/dl)	0.9
GGT(U/l)	6	Na(mmol/l)	151
TCho(mg/dl)	112		
TG(mg/dl)	59		
NH3(μg/dl)	35		



図1 初診時腹部エコー検査
肝実質とその後方のシスト



図2 初診時CT造影検査
均一な陰影度の巨大腫瘤



図3 初診時CT造影検査
門脈左側枝の消失

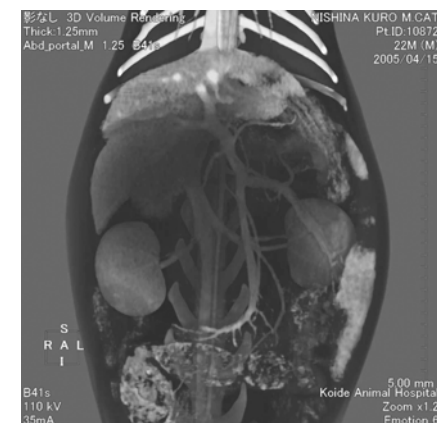


図4 初診時CT造影検査
左葉領域の不明瞭化

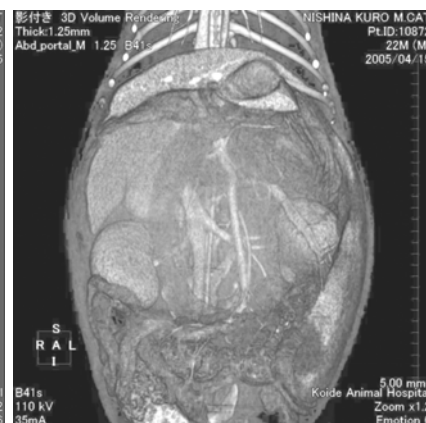


図5 初診時CT造影検査
胆嚢の左側への変位

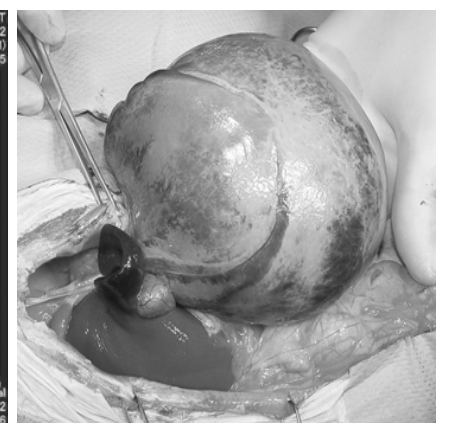


図6 手術所見
捻転し，シスト化した外側および内側左葉